

2022年 1月29日

神宮外苑地区地区計画により伐採もしくは移植が計画されている樹木

住所： 東京都千代田区一ツ橋 2-2-5
岩波書店一ツ橋ビル 13F
（株）文化財保存計画協会 気付
法人名：（一社）日本イコモス国内委員会
連絡先：Tel/Fax 03-3261-5303
Email jpicomos@japan-icomos.org

2021年12月28日「一般社団法人日本イコモス国内委員会は、令和4年2月9日（水）開催予定の第236回東京都都市計画審議会案件「神宮外苑地区地区計画」「東京都市計画明治公園の削除」に対する意見書を提出しました。

図1は、東京都都市整備局が作成した、地区計画が実施に移された場合の神宮外苑のイメージ図です。秩父宮ラグビー場が絵画館横に移設され、跡地には事務所用の超高層ビルが建設される計画となっています。これに伴い、都市計画明治公園の面積は、3.4 ha削減され、絵画館前の広場には、両側に会員制テニスクラブが設けられる計画となっています（図1参照）。当該地域は、大正15年9月1日に、東京都市計画・明治神宮風致地区に指定されており、なかでも絵画館前のエリアは、風致地区（A地域）は、「風致地区の核として位置づけられ、優美な風致を特に保全すべき地域」とされています。具体的には、木竹の伐採について以下の通り、許可基準が定められております。

- ① 支障木の伐採は必要最小限に止め、現存する植生はできるだけ残存させるものであること。
- ② 保護樹木等周辺風致の維持に有効と認められる大径の高木については、極力残存させるものであること。
- ③ 1,000平方メートルを超える皆伐についてはA地域においては認めないものとする。

（出所：新宿区における東京都風致地区条例に基づく許可の審査等に関する基準
制定 平成26年3月28日、改正 令和2年2月28日）

既存樹木の具体的な保全については、都市計画図書には、全く記載されていないため、私どもは、2022年1月2日～1月6日にかけて、図2に基づき毎木調査（樹高3m以上の高木を対象）を実施し、保全される樹木と、伐採もしくは移植される樹木の位置を確認いたしました。この結果、約1000本の樹木が、この「公園まちづくり計画」で失われることが明らかになりました。

神宮外苑は、「公衆の優遊」を旨とし、国民の浄財と貢木により整備された、日本の近代を代表する公的な資産です。青山通りから4列の銀杏並木の軸線をへて、広潤な芝生広場が展開され、

ヴィスタの焦点に絵画館、そして背後の常緑広葉樹の森が景観を受けとめる意匠は、20世紀初頭の都市美運動の結実したものであり、この景観の構造は個別に切り離されて成立するものではなく、緊密な関係性の中に「都市美の形成」が行われたものです。また、芝生広場はアマチュア・スポーツの場として、多くの市民に親しまれてきました。

この珠玉の文化的な景観が、「公園まちづくり計画」により、存亡の危機に瀕しています。既存樹木の伐採は、最も端的に、この危機を象徴するものであると考え、私どもは毎木調査を踏まえて、模型の製作を行いました。

- ・ 模型のローズ色は、最も重要な風致地区 A で伐採される予定の樹木です。
(樹齢 100 年となる神宮外苑銀杏並木 18 本、絵画館前の芝生広場の大木等)
- ・ 模型のオレンジ色は、既に伐採された新国立競技場の樹木も含み、失われた、そして今回の計画により、失われる樹木の位置です。(新国立競技場の建設時に伐採された樹木については、参考資料をご覧ください。)

もとより、現存樹木の位置とリストの一覧は、私どもは持っておりませんので、正確さには欠ける模型ですが、約 1000 本という樹木数、及び失われる樹木の位置は、図 2 の計画図と対応しております。

この模型を、多くの人々が御覧になることにより、「公園まちづくり」という名のもとに、コロナ時代に逆行する高密・高層化の都市再開発が行われようとしていることを、知っていただきたく、公表するものです。

■イメージパース (東側から計画地を望む)



■配置図



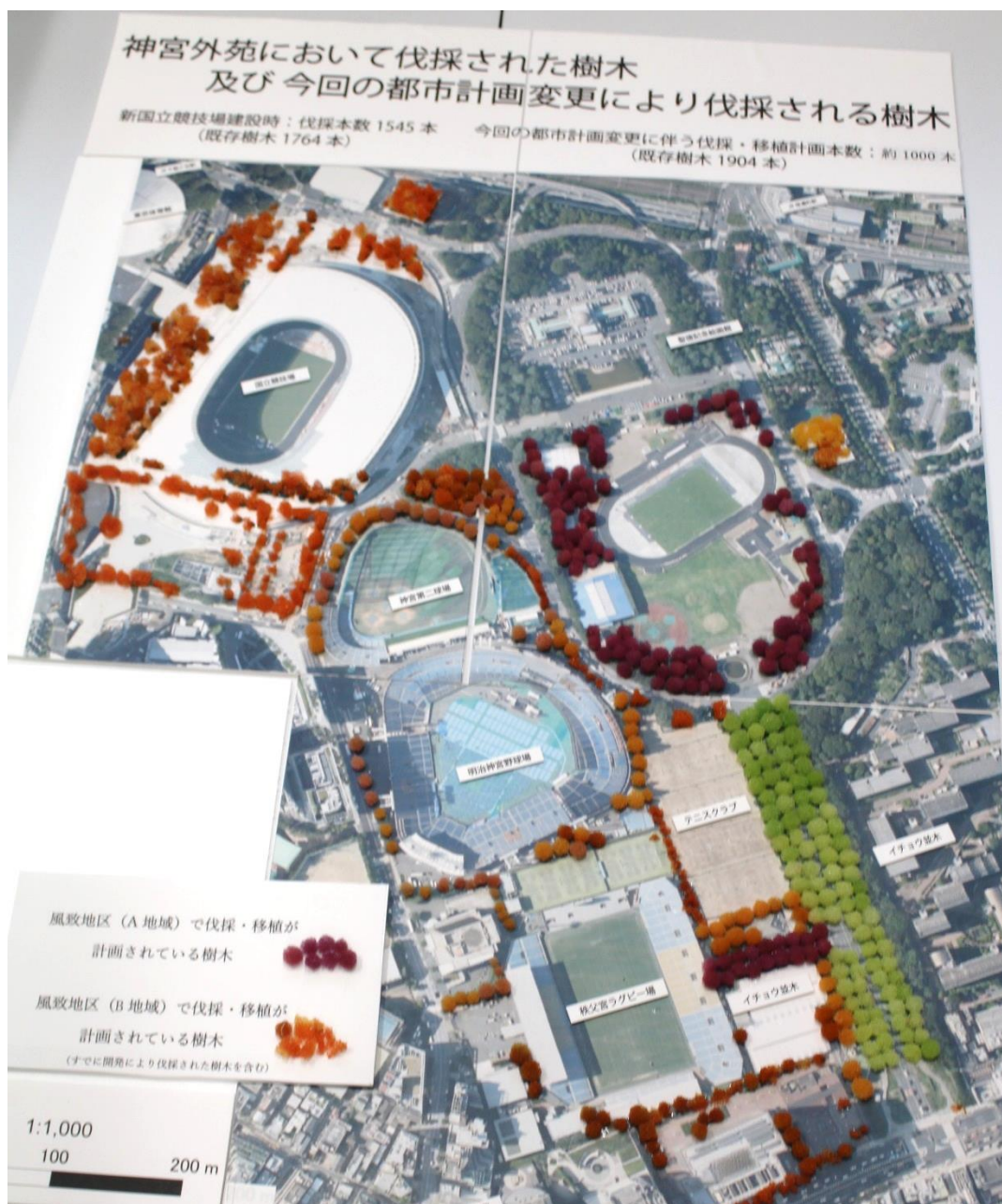
図 1 神宮外苑地区公園まちづくり計画イメージ図

図 2 公園まちづくり計画平面図

東京都都市整備局 「神宮外苑地区公園まちづくり計画 公園まちづくり計画提案書 概要版」

https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/bosai/toshi_saisei/saisei07_06.htm

模型写真：神宮外苑において伐採された樹木及び今回の都市計画変更により伐採される樹木
（新国立：1545本が伐採・移植、今回の計画：約1000本が伐採・移植）



模型のローズ色は、最も重要な風致地区 A で伐採される予定の樹木です。

（樹齢 100 年となる神宮外苑銀杏並木 18 本、絵画館前の芝生広場の大木等）

模型のオレンジ色は、既に伐採された新国立競技場の樹木も含み、失われた、そして今回の計画により、失われる樹木の位置です。（新国立競技場の建設時に伐採された樹木については、参考資料をご覧ください。）

公園まちづくり計画により、野球場となり伐採が予定されている

神宮外苑の銀杏並木（18本）。(突き当りが現在の秩父宮ラグビー場)。



銀杏並木の由来（神宮外苑青山口の碑文）

この銀杏が、苗圃で実生えてより実に八十有余年、外苑に植栽されてより早や七十年、このように雄大に、見事な樹形を保ちつつ成長してあります。銀杏樹は種生の環境、手入れが適当であれば、その成長量がいかに偉大であるかを、如実に物語っております。

樹木の運命は、その立地の適不適によつて決められるものでしようが、本意所、よく育てられ、よく場所が選ばれた樹木ほど幸運なものはないでしょう。同じ時期に、同じ苗圃で育てられてきた、これら多くの兄弟木は、世にも希なる幸福な樹木と言えます。今後幾百年、これら兄弟木の銀杏は生長に生長を続けて老大成し、その偉大なる勇姿を發揮し、外苑各地と調和し、我々に見事な人工自然美を奏しませてくれることでしょう。

平成御大礼の日（之を建つ）
平成二年十一月十日 明治神宮外苑

銀杏を採集し、これを種子として、明治神宮外苑の苗圃に降いたことにより、その後、苗圃の木々はすくすくと成長し、その数一八〇本にもなりました。

外苑造営に当たり、この銀杏樹を採用することとなり、既に樹高六メートル内外に成長していた、これら多数の中より候補樹を選抜し、更に並木として適格になるよう、年々樹形を整えてきたものを、大正十一年（一九二二）に植栽したものです。

直路四本の並木と、途中四折して女子学院正門（現秩父宮ラグビー場）に至る二本の並木も同時に植えられてあります。最高二十四メートル・目通り周回二メートル八十七センチ、最低十七メートル・目通り周回一メートル八十七センチのものを、樹高順に青山口より降り勾配に従つて植えられてあります。絵面調を眺む見事な造景法の活用です。

四並列の銀杏の大木が作り出した、世界に誇り得る銀杏並木の景観。これを通し、正面に白亜の絵画館を望む人工自然美の素晴らしき、若葉・青葉・黄葉・裸木の四季折々の美しさ。長年にわたる管理、手入れの良さが見事な樹形を作り出しております。この明治神宮外苑は大正十五年（一九二六）十月二十一日の創建であります。その苑地造成に当たり、青山通り正面からの直線主要道路は、左右歩道の両側に植樹帯を取り、銀杏樹をもつて四本の並木を造成することになりました。

これは、銀杏樹が、樹姿端正・樹高ようしく、緑量も豊富・気品高く、公害にも強く、威容を保ちつつ年間を通しての美姿を好景観を呈示し、外苑の広幅員道路の並木として最適なものと考へられるものです。

この外苑の銀杏樹が、この世に実生えたのは、造園界の泰斗・折下吉延博士（外苑造営時の庭園主任技師・昭和四十一年八十八歳で没）が、新宿御苑に奉職中の明治四十一年（一九〇〇）新宿御苑在来木の、銀杏樹から銀杏を採集し、これを種子として代々木の宮内省南豊島御料地内（現在の明治神宮外苑）の苗圃に降いたことにより、その後、苗圃の木々はすくすくと成長し、その数一八〇本にもなりました。

いちよう（銀杏・公孫樹）

銀杏は、現存する最も古い前世界の植物の一つです。地質学上中生代ジュラ紀（億五千万年前、巨大恐竜が繁息していた時代に）に地球上に広く分布し、生育していた樹種です。従つて、その化石の発見は福地島の南北両半球、中国・日本にまで及んでおります。氷河期の到来により、多くの地方では、銀杏樹は絶滅しましたが、温暖な気候を保ち得た中国では死滅を免れ、生育を続けて現在に至つております。

日本の銀杏は、この中国より渡来した樹種で、現在では街路樹・防火樹・庭木としてひろく植えられており、「東京都の木」ともなっております。現在では東南アジア以外ではほとんど植えられておりません。

並木の総本数は一四八本（雄木四四本・雌木一〇四本）

参考資料 新国立競技場建設により失われた樹木

表 1 新国立競技場建設により失われた樹木

既存樹木(本)						
	四季の庭	霞岳広場	霞ヶ丘競技場	日本青年館	合計	
高木	235	275	372	79	高木計	961
低木	379	69	175	180	低木計	803
計	614	344	547	259	樹木合計	1764
移植樹木(本)						
高木	98	82	39	0	高木計	219
低木	0	0	0	0	低木計	0
計	98	82	39	0	樹木合計	219
伐採樹木(本)						
高木	137	193	333	79	高木計	742
低木	379	69	175	180	低木計	803
計	516	262	508	259	樹木合計	1545

※新宿区から提供された風致地区条例の許可(新国立競技場整備工事に伴う木竹の伐採)の樹木リストに、既存植栽位置図にて「前回申請に基づき既に伐採・移植済み」及び「立木調査時点で既に伐採済み」と記載された本数及び、(独)日本スポーツ振興センターへの聞き取り調査により作成



図13 新国立競技場建設地と伐採された樹林の位置

出所：日本学術会議提言：神宮外苑の歴史を踏まえた 新国立競技場整備への提言 一大地に根ざした「本物の杜」の実現のために 2017年2月3日 <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t239-1.pdf>